

グローバル・スペシャリストを育成 する自走型学習エコシステムの構築

～オンライン、オンデマンド教材による

自習&フィードバック・システム～

経済学部 准教授 宮西 賢次

はじめに

筆者が担当する専門演習において、「グローバル・スペシャリスト育成」と、「経済経営系の大学でNo. 1のゼミを目指す」という目標を掲げて、オンライン、オンデマンド教材のシステムとフィードバック提供による「自走型学習のエコシステム」を構築してきた。とくに、1.「財務諸表分析、企業価値評価、コーポレート・ファイナンスの専門性とデータ分析能力の獲得および大学院レベルの卒業論文の作成」、2.「海外でも通用する英語力の強化」の2つを重視して、長年にわたり、教材の蓄積と改良を行ってきた。

6つの学習フォルダ

1. 財務諸表分析&企業価値評価フォルダ

日ごろの専門演習では、欧米ビジネススクールの上級テキストや学術論文をもとに、主にプレゼンテーションとディスカッション、実践的な問題演習に取り組んでいる。ビジネススクールのテキストには、各章で膨大な演習問題（ケーススタディを含む実践的な問題）が提供されているが、これを通常の授業時間内に全てこなすのは不可能である。そこで、すべての問題について筆者が独自に作成した解答例と参考文献や資料をフォルダ内に収録し、授業外での自習に役立てている。

また、自習に際しても、適宜グループが形成され、問題演習のプロセスを通じて、ディスカッション能力を鍛えている。

2. コーポレート・ファイナンスフォルダ

毎年8月から9月末までの1カ月半、週に一度「8時間耐久ゼミ」をオンラインで開催し、財務分析や企業価値評価の理論のベースとなるコーポレート・ファイナンス分野について学んでもらっている。ここでも欧米のテキストや文献を素材に、プレゼンとディスカッション、問題演習を軸に取り組んでいるが、各章の演習問題やケース問題の解答と参考資料を全てフォルダに収録し、夏季休暇期間に解けなかった問題について、秋学期の期間に各自が学習している。

部活動や課外活動、海外留学などで耐久ゼミに参加できない学生もあり、また学生の復習用に活用するため、全回分を録画し、フォルダに収納している（図1）。

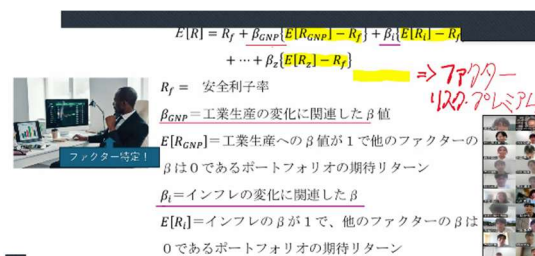


図1 リモートによる夏の耐久ゼミの動画

3. データサイエンス・フォルダ

秋学期後半には、通常のゼミとは別に、毎回4時間から5時間程度のデータサイエンス・セミナーを4～5回オンラインで提供している。すべてをセミナーでカバーするのは困難なため、データ分析のプラットフォームの構築方法、データベースの利用方法、数理統計手法、多変量解析手法、機械学習に関す

るフォルダを提供している。多くの教材をベースに、とくに経済経営分野の分析に活用できる手法をほぼ網羅的に取り上げ、元データ、分析のためのコードと分析結果のログ、様々な手法の解説ファイルを収納している。ファイル数は約 250 である（図 2）。また、毎回のセミナーを録画し、動画版も収納している（図 3）。



図2 データサイエンス・ルートフォルダ

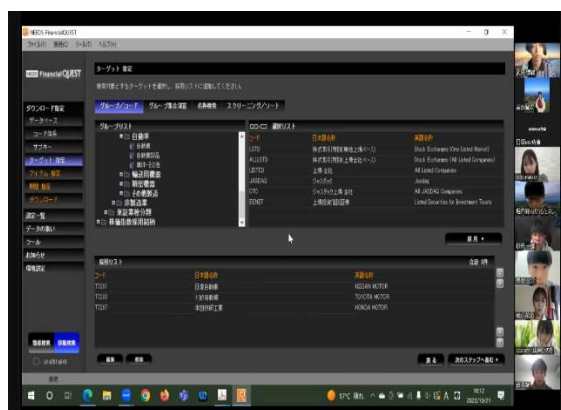


図3 日経 NEEDS 講習会の動画

4. 卒論関係フォルダ

ゼミ生は毎年3年次の1-2月に卒論計画を作成している。この計画をもとに、就職活動が終わる4年次の夏以降にデータ分析を盛り込んだ卒業論文のための研究に力を注いでいる。論文の書き方、参考文献として活用すべき学術雑誌のリスト、卒業論文のテーマの設定方法、分析アプローチ、過去の先輩が提出した卒論をいつでも参照できるよう、様々な資料と共に直近数年分のすべてのゼミ生の卒業論文をフォルダに収録している。

これにより、効率的に論文テーマの設定や研究計画概要の作成が可能となり、ここ数年は大学院レベルの論文作成が可能となっている（図4）。

- ・原油価格と株価の予測モデルの構築：機械学習モデルとQual VARの統合アプローチ
- ・特許情報と企業価値の関係 ～日本の上場製造業における実証研究～
- ・生成AIの社会実装に伴う日本企業の企業価値評価構造の変容 ～人的資本投資とPBRの非線形回帰分析～
- ・日本企業における不正会計検出モデルの構築 ～ベンフォードの法則と F-Scoreの統合によるアプローチ～
- ・穀物価格と株価の関連性 ～線形モデルと非線形モデルの比較の観点から～
- ・日本の製造業上場企業における収益変化予測 ～機械学習モデルの応用～
- ・CSV経営が企業価値に及ぼす影響の分析 ～業種比較モデルとLasso回帰を通じたCSV変数の選択～
- ・サプライチェーン構造と株価反応：2025年のサイバー攻撃事例を用いたイベント・スタディ

次頁へ続く

- ・グリーンボンド発行が企業の財務健全性に与える影響の実証分析
- ・M-Score、F-Score、ベンフォードの法則を用いた不正会計の研究
- ・新リース会計基準の導入が企業価値評価に及ぼす影響 ～リース依存度に着目した交差項モデルによる実証分析～
- ・東証「資本コストや株価を意識した経営」開示企業一覧表の公表が企業の利益調整に与える影響 ～修正ジョーンズモデル及び双方向固定効果モデルによる検証～
- ・資源インフレ・エクスポージャーと市場評価の分析 ～粗利益率の感応度を用いた「価格転嫁力」の評価実証～
- ・機械学習モデルによる企業バリュエーション ～SHAPを用いた要因分析の検証～
- ・特徴量を抽出するAI格付けモデルの構築
- ・日本市場における販管費の資産化と企業価値の変遷 ～Before and After Covid-19～
- ・グリーンボンド発行が企業価値に与える影響に関する実証研究 ～環境スコアを用いたシグナリング仮説の検証～
- ・日本企業におけるフリーキャッシュフローと労働投資の効率性
- ・財務指標と株式リスクを考慮した信用格付けモデルの分析 ～日本企業の信用格付け評価の実証研究～
- ・財務構造の段階的悪化に基づく倒産予測モデルの構築 ～日本企業のケーススタディによる分析～
- ・機械学習を用いた日本企業の翌年EPS 成長率予測の比較分析

図4 2026年に卒業したゼミ生の卒業論

5. TOEFL 英語問題演習フォルダ

所属ゼミが確定する2年次の12月から各自英語力強化に取り組んでもらうため、TOEFLの文法テキストを学んでもらっている。

とくに、過去問30回分と解答を提供し、毎回の問題について、学生が質問ファイルを作成し、それに対して解説する形で進めている。過去の質問ファイルと解説も収録し、自学自習を容易にしている。この基礎的なトレーニングにより、文法力と読解力を鍛え、ゼミで活用している欧米のテキストや論文を原書で読めるようになっている。

また、ゼミ生のTOEICのスコアも、毎年940点前後の平均点を達成している。表1は、2026年卒のゼミ生のゼミに入る前

(Before)と4年時(After)のTOEICのスコア分布の統計量である。平均点は、674点から941点に上昇しており、標準偏差は1/10のレベルになっている。得点のレンジが、2年次の400点から910点の分布に対して、4年次の920点から975点へとシフトしていることから、BeforeとAfterの分布に重なりがないことがわかる。毎年同様の結果となっていること、TOEFLやIELTSでも極めて高い得点分布となっていることから、ゼミで導入しているトレーニング方法が有効であり、結果の再現性もあることがわかる。

	Before	After
μ	674	941
σ	134	13
Range	400～910	920～975

表1 ゼミ所属前と4年次のTOEICスコア統計

6. その他のフォルダ

その他、専門分野を含む様々なジャンルごとの推薦書籍・文献リスト及びそのPDFファイル、英語学習関連の教材やツールのリスト、先輩ゼミ生たちの留学や海外インターンシップに関する過去15年間の資料などを収録し、随時参照できるようにしている。

実績と成果

上記6つのフォルダを活用することで、自走型学習エコシステムの構築が実現している。勉学意欲溢れるゼミ生が毎年20名ほどゼミに所属するが、ゼミ生が自律的に学ぶ姿勢とエネルギーには驚くべきものがある。さらに、過去15年間については、大半のゼミ生が、専門性と語学力を生かした留学や海外インターンシップに挑戦していることが、一つの成果である。

ゼミでの勉学を経たOBOGは、外資系投資銀行、商社や不動産デベロッパー、広告やマーケティング会社、政府機関やグローバル企業の財務経理職などで、専門性と語学力を発揮して活躍しており、実業界で評価されている。ゼミの卒業生はすでに500名を超え、オンライン、オンデマンドの教材を活用することで、共に学び成長する巨大なネットワークを形成している（図5）。



図5 2025 宮西ゼミ OBOG 会@双葉荘・彦根